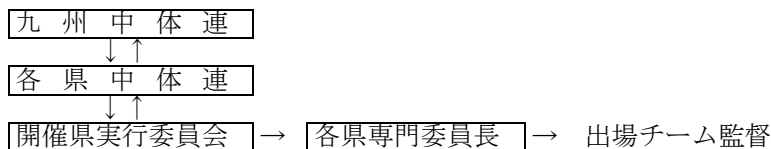


災害等緊急時における九州大会開催の対応について

1 大会運営の基本

- (1) 原則
- 九州の代表を決定することを原則とする。
 - 大会成立のための必要参加数は、各競技全国大会出場枠数（団体・個人）とする。
 - 競技により1日の順延もあり得る。（軟式野球・ソフトテニス・ソフトボール・テニス）ただし、沖縄県開催競技については、沖縄県計画輸送の範囲内で行う。
- (2) 留意事項
- 大会成立のための必要参加数を満たさず、大会が成立しなかった場合
→ 『抽選を実施し、推薦』
 - 大会成立のための必要参加数の参加があり、大会が成立した場合
②-1 全中出場チーム・個人は決定しているが、代表順位が決定していない場合
→ 『代表順位を抽選』
②-2 全中出場チーム・個人が決定していない場合
→ 『勝ち残っているチーム・個人での抽選を実施し、推薦』
【①②に係る推薦・抽選の取扱いについて】
推薦・・・大会成立のための必要参加数は満たしたが、競技未実施または、大会が中止になった場合、参加予定チーム・個人で抽選を実施し、該当チーム・個人を推薦する。
抽選・・・災害等でA：大会が中止になった場合B：代表順位が決定していない場合C：大会は成立したが全中出場チーム・個人が決定していない場合に抽選を行う。
※全中出場枠が決定している場合『抽選』全中出場枠が決定していない場合『抽選・推薦』
 - 運営方法を変更して実施することも可能 → 『競技2日間で1日に短縮等』
 - いずれの場合も、最終判断は九州中体連会長が行う。ただし、大会運営上、迅速な対応が求められる場合、九州中体連会長代行として開催県中体連会長が判断してもよい。その場合、九州中体連会長に事後報告を行う。

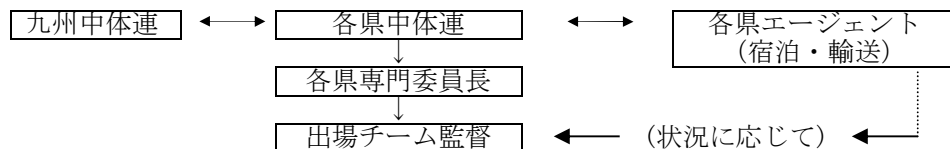
(3) 緊急時の連絡



- (4) 補足
- 陸上及び水泳については、2県参加が成立基準。（大会中止もあり得る）
 - 競技大会は成立したが、男子種目又は女子種目どちらかのみで開催もあり得る。その場合の措置は、上記留意事項①②に準ずる。

2 荒天時の対応

- (1) 方針 出場チームの大会参加が可能な方向で、最大限の努力と配慮をする。
- (2) 連絡態勢
- 不確定な情報の錯綜による、出場チームの混乱を防ぐために、各県中体連が緊密に連絡を取り合い、確実な情報提供に努める。
 - 最終判断時刻は未定につき、各県関係者は確実に連絡がとれるようにして待機しておく。
- (3) 連絡方法



- (4) 競技前日
- 深夜及び翌日の到着見込みがあれば、到着遅延県の「専門委員会」「監督会議」「開会式」への参加を免除し、予定通り実施してもよい。なお、協議内容は確実に事後連絡する。
 - 各県実行委員会は、競技会場、宿舎確保、既着県の延泊経費負担等の状況を考慮し、競技開始最大遅延可能日時を設定しておく。
- (5) 競技運営
- 大会そのものの運営が優先されるため、台風の進路予想によっては突然の再変更があり得る。したがって到着したにもかかわらず、出場できなかったという事態が生じる場合もある。
 - 屋外実施競技においては、晴雨の状況に応じて上記の場合と同様の対応を取る場合がある。
 - 専門委員会及び監督会議で確認し、九州中体連会長の了承が得られれば、順延が可能な競技もある。（軟式野球・ソフトテニス・ソフトボール・テニス）

3 感染症への対応

- (1) 方針 疑い、症状のある場合には、ただちに医療機関に搬送し、医療機関の指示、指導を受け、感染拡大防止等に努める。
- (2) 連絡方法 大会運営の基本 (3) の緊急時の連絡に準ずる。尚、行政へも連絡すること。
- (3) 競技運営 大会参加可能なチーム・選手によって、代表を決定する。
※具体的な対応については、（別紙・別様式に示す）

4 全国瞬時警報システム（Jアラート）への対応

- (1) 発生事例
- 大規模自然災害（地震・津波・火山噴火等）
 - 武力攻撃事態（弾道ミサイル発射等）・存立危機事態
- (2) 方針 大会に関わる全ての人の生命及び安全を確保するために、最大限の努力と配慮をする。
- (3) 連絡方法 発生事象に応じて、実行委員会が関係機関と連携して、待機・避難等の連絡を速やかに行う。
- (4) 競技運営 事前に大会の中断・待機・避難・再開等のマニュアルを作成して、大会関係者に周知しておく。

災害等緊急時における九州大会 実施態度決定計画

【基本方針】

選手、役員など参加者の安全確保を最優先

- (1)悪天候の場合でも参加者の安全が確保される場合は、荒天時対応
- (2)大会期間中に急激な気象状況の変化により、参加者の安全確保が困難であると判断した場合は、大会を中断又は中止

【判断基準】

態度決定時において、次のいずれかに該当する事案が発生した場合は大会中止も検討する。

- (1)大会開催期間に台風の暴風域が直撃する予想が発表された場合
- (2)会場地に大雨、洪水、暴風などの警報が発表された場合
- (3)会場が実施可能な状態を保てない場合（避難所開設等も）
- (4)公共交通機関に大幅な遅れや運休が見込まれ、選手、役員、運営スタッフ等が会場に参集できない場合

【例】 8/1(前々日) 8/2(前日沖縄入り) 8/3(諸会議・開会式) 8/4(①競技) 8/5(②競技・閉会式)

日時	決定手続きの流れ	
8/1 (前々日)	開催県実行委員会	各県エージェント
	8/2 (前日)	各県専門委員長
8/3 (諸会議・ 開会式)		九州中体連
	8/4 (競技①)	開催県実行委員会
8/5 (競技②・ 閉会式)		各県専門委員長

- ・計画輸送の情報共有
- ・気象状況に応じ、**2 荒天時対応(1)**をもとに態度検討
- ・決定もしくは仮決定内容の周知徹底
(各県HP、メール、TEL等)

開催県教育委員会

九州中体連

- ・情報収集
- ・**仮決定以外の態度検討**
- ・決定内容の周知徹底
(各県HP、メール、TEL等)